



学校評価特集号 よりよい高井戸第二小をめざして

～平成30年度 教育調査・学校関係者評価の結果報告～

副校長 目黒 浩志

30年度もあと2か月を残すのみとなりました。まとめの時期を迎え、高二小では、今年度の教育活動を振り返り、次年度、さらによりよい学校になるための準備をしているところです。

昨年11月末からこの1月にかけて、教職員対象の自己評価、児童対象のアンケート、保護者の皆様への教育調査、学校評価委員（CS 委員兼務）による学校関係者評価を実施しました。ご協力いただき、ありがとうございました。

子どもを育てる家庭・学校・地域それぞれの取組がどうであったのか振り返り、よりよい学校づくりの方向性を明確にすることは、学校評価の大切な役割であるといえます。

この学校評価特集号では、30年度の本校の教育活動を、30年度教育調査および学校評価シート(自己評価・学校関係者評価)により振り返り、皆様からのご意見を今後の教育活動に生かす具体的な方策をお示しします。

「人が育つ学校」「昨日より今日、今日より明日輝く子」の育成を目指し、今後も引き続きご理解、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

回収率：88.0%

	観点	平成30年度 教育調査(保護者アンケート)集計結果	肯定率 (%)	
			29年度	30年度
1	学 校 経 営	子どもの学校生活は、全体として満足できるものである。	92.8	90.0
2	小中一貫教育	連携する小・中学校による小中一貫教育が進められている。	54.1	45.3
3	学 校 評 価	学校は、教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。	63.8	68.4
4	学 級 経 営	学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりをしている。	88.4	87.0
5	学習成果の実感	子どもは、学校の授業を通して、分かることやできることが増えている。	90.5	87.5
6	学 習 評 価	学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。	81.3	78.5
7	I C T	学校は、ICT 機器（電子黒板やデジタル教科書等）を活用した授業を行っている。	77.2	77.4
8	道 徳 教 育	子どもは、学校生活を通して、他者と共によりよく生きるための力が育まれている。	83.1	84.6
9	体育・健康教育	子どもは学校生活を通し体力や食、生活習慣等、健康な生活を送る力が育まれている。	91.0	87.3
10	特別支援教育	学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。	59.5	51.8
11	地域と共に在る学校	学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている。	81.8	81.5

※ 肯定率：「とてもそう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまり思わない」「まったく思わない」「質問の内容がよく分からない」

のうち、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を肯定ととらえ、パーセンテージであらわしたものを。

平成30年度 学校評価シート

経営目標	項目	具体的な方策	反省点・改善策の把握	平成31年度の方針
			◎成果 ■課題	
人権尊重の精神と豊かな心の育成	絶対としめ生活・指導の充実の実根	○よさを認める共感的な指導と組織的な体制づくり ・生活指導夕会（週1回） ・特別支援夕会（週1回） ・特別支援全体会（年2回） ・定例校内委員会（月1回） ・臨時校内委員会（適宜） ・SSW、子ども家庭支援センター等	◎定例及び臨時の校内委員会が適切に実施できていた。 ◎支援が必要な児童の支援策を、具体的に考える場となっていた。 ◎学校全体で情報を共有し、児童の様子を把握することで、生活指導等に役	○校内委員会の報告は引き続き丁寧に行い、共通理解ができる場として週1回の特別支援夕会や生活指導夕会を継続する。 ○夕会の報告は学年輪番で行っているが、必要な報告は適宜行う。 ○特別支援全体会は、校内委員会での話し合いを生かし
	き明かるうい学校での行	・大人が率先して挨拶する。 ・看護当番の活用。	◎大人が率先して挨拶するのは効果的。 ◎挨拶ができる児童が増えてきている。 ◎代表委員会の児童の「あいさつ運動」の効果で校内ですれ違う際のあいさ	○大人が率先して行うことは継続する。 ○6年生の挨拶当番や代表委員会だけでなく、たてわり班を活用したあいさつ運動も考えていく。
	る豊かな心の道徳教育を	・週1回の計画的な道徳の実施。 ・自己有用感や自己肯定感を高めることを大切にした指導。 ・道徳授業地区公開講座。	◎学年で教材を相談して、授業をするようになった。 ◎教科書を活用し、週1回の道徳を確実に実施することができた。 ■道徳授業地区公開講座の内容項目は「生命尊重」ではなく、内容項目を	○ワークシート等を活用することで、児童の評価を着実に行う。 ○夏季休業中に道徳の研修会を行う。 ○次年度は道徳授業地区公開講座を9月に実施し、「いのち」をテーマにした道徳の授業を行う。 ○道徳授業地区公開講座では別な地域教育についての講
	環境を生命の大切さ	・教材園の活用。	○生活科の学習で、植物や虫の観察をピオトープで行ったり、植物の観察を教材園で行ったりすることができた。	○教材園やピオトープを継続して整備する。 ○教材園の活用を理科・生活科の教科担当で見直し、理科や生活科の年間指導計画に明確に組み込む。

経営目標	項目	具体的な方策	反省点・改善策の把握	平成31年度の方針
			◎成果 ■課題	
確かな学力と体力の定着	学習基本的生活習慣	・「たかにハンドブック」の活用。 ・学習規律の統一。	◎「たかにハンドブック」は、児童だけでなく、保護者に説明するときにも活用できてよい。 ◎予鈴のチャイムが早まり、学習の準備に余裕ができた。	○「たかにハンドブック」は来年度も継続して作成する。4月中の配布を目指して、今年度中に作成を行う。 ○持ち物については、折に触れて継続して指導していく。 ○来年度の研究（主体的・対話的で深い学び）の中で授
	読書活動の推進	・学校司書の活用。 ・学校図書館経営計画・図書館全体計画の活用。	◎今年度から年2回の読書旬間を実施し、「たかにおすすめ本」「給食コラボ」「ハッピーパスポート」など、新しい活動を通して、全学年の児童が読書に進んで取り組むことができた。 ◎学校司書や、読み聞かせボランティアの読み聞かせのおかげで、児童の読書活動が充実した。 ■秋の読書旬間は行事と重なり、落ち	○来年度も学校司書と担任が連携して日々の読書活動の推進を図る。 ○読み聞かせボランティアについては、継続してお願いする。 ○広い視野で選んだ団体の貸し出し本が学級にあることは、効果的なので、保護者による選本を引き続きお願いする。 ○低・中・高別「たかにおすすめ本」の取組は年間を通してすすめていく。
	学習習慣の確立	・家庭との協力。 ・学習習慣の確立。	◎学級での指導と、家庭との連携で、家庭学習の習慣がつくよう取り組むことができた。 ■家庭学習が定着していない家庭には、継続して連携を図る必要がある。 ◎算数少人数指導では、コースごとの担	○家庭と連携して児童への指導を、継続して行う。 ○宿題や文房具などの持ち物について1学期の保護者会で「たかにハンドブック」を使って、各家庭に内容を理解していただき、より連携を強めていく。 ○学年・学級だより等で学習習慣の確立への理解を呼びかけていく。 ○算数は、来年度もコースの担当を固定して、一人一

平成30年度 学校評価シート

経営目標	項目	具体的な方策	反省点・改善策の把握		平成31年度の方針
			◎成果 ■課題		
確かな学力と体力の定着	組み力向上への取り組み	・体育授業の改善と運動遊びの日常化プロジェクト。 ・自主研修会。 ・長縄の取組。 ・体力調査。	◎体育の授業で投てき板を活用し、楽しみながら投げの力がつくような取組を行った。 ◎長縄は運動が苦手な児童も、友達と助け合う姿が見られ体育の取組として成果があった。 ◎体力テストで保護者の方にお手伝いをいただきスムーズに進めることができた。 ◎児童の体力が伸びていることは大きな成果であった。	○ミニ研修はすぐに指導に生かせるので今後も継続して行う。 ○投てき板、体力アップカード、遊び紹介カードの担当を明記し、投てき板の活用をさらに広げていく。 ○長縄グランプリは、宿泊行事の時期を考慮し、必要に応じて練習の開始時期を早める。 ○体力テストの実施にあたっては、引き続き保護者に協力を依頼する。 ○体育科の研究の成果を生かして次年度の体育の年間計画をよりよいものにする。	
	の推進一貫教育	・小中の学びをつなげ、切れ目のない教育を進める。 ・小中連携三校（西宮中、本校、松庵小）の相互理解を深める。	◎Q-Uの取組は、よりよい学級経営を行うために効果的だった。 ■Q-Uアンケートの結果の見方を確認する機会があるとよい。 ■小中連携の授業研究は、分科会を増やした方が研究がさらに活性化すると思う。	○西宮中を核とした3校での取組は、次年度本校が幹事校なので分科会を増やす方向で西宮中、松庵小に提案していく。 ○Q-Uの読み取り方の研修を夏季研修に入れ、今後もQ-Uの取組を継続する。 ○授業を通して小学校での学びを中学校に繋げられるようにする。	
経営目標	項目	具体的な方策	反省点・改善策の把握		平成31年度の方針
			◎成果 ■課題		
教師の授業力の向上	入計週画の指導記録	・前の週の金曜日までの作成。 ・ねらい、流れ、中心活動を適宜記述する。	◎学年会で作成の時間を設け前の週の週末までに週案を作成することができた。 ◎前の週の金曜日までに作成することで、学級や学年の動きに見通しがついた。	○学年主任が週案を先に作成し、それを活用しながら週末に学年会で行事の相談や教材研究を行う。 ○「安全に関すること」については、週案に記入することを継続し、指導を徹底する。	
	の授業作成改善プラン	・国や都、区の学力テストの結果分析。 ・学力向上校内研修会の実施。	◎クラスの課題をもちより、学年共通の課題を共有し、授業改善に活用することができた。 ◎分析を行うことで算数グループの編成や指導の工夫に生かすことができた。 ◎昨年度よりさらに学力調査の結果が伸びていくことが期待できる。	○夏休み中の前半で学力向上校内研修会を行い、学校や学年・学級の特徴を分析・把握することで、1学期をふまえた授業改善プランを作成できるので継続していく。 ○どの子も伸びる授業改善をめざす。	
	の校内研究	・体育科授業改善の取組。	◎今年度はゲームとボール運動の領域に絞って研究を進めてきたことで、体育科の授業改善を図ることができた。 ◎授業観察や若手教員の巡回指導の授業は、校内全体で授業公開をしたことでお互いの授業を見合って学ぶ機会を多くもつことができた。 ◎自主研修会を行ったことで学校外で学んできたことが校内に還元できている。	○体育科の授業改善の成果を年間指導計画に盛り込む。 ○次年度は思考力・判断力・表現力を伸ばすために「主体的・対話的で深い学び」をテーマに国語の校内研究に取り組む。	
	の同僚教員からの	・お互いの授業を見合って学ぶ「ちょいと見」。 ・校長による授業観察。 ・研究員経験者、教科等推進委員の授業観察。	◎授業観察や若手教員の巡回指導の授業は、校内全体で授業公開をしたことでお互いの授業を見合って学ぶ機会を多くもつことができた。 ◎自主研修会を行ったことで学校外で学んできたことが校内に還元できている。	○教員が主体的に授業力を高められるよう、自主研修会や「ちょいと見」を継続する。 ○外国語やICTのミニ研修や自主研修会については、早めに周知して全員が参加できるように配慮する。	
経営目標	項目	具体的な方策	反省点・改善策の把握		平成31年度の方針
			◎成果 ■課題		
開かれた学校づくり	針の学校経営方針の説明	・4月の保護者会での学校経営方針の説明、周知。 ・教育活動の報告（3月の保護者会）。	◎年度始めの保護者会で学校経営方針を周知することができた。 ■9月の保護者会は、個人面談直後ということもあり参加人数が少なく、話題も重複する。	○年度初めの保護者会で行う。 ○個人面談は、次年度も8月後半に設定し、9月の保護者会には行わない。5・6年の移動教室説明会は適切な時期に別途行う。	
	のコミュニケーション	・学校運営協議会の定期的な開催。 ・地域運営学校の利点を生かした学校経営。	◎学校運営協議会開催後に学校運営協議会だよりを発行できたことで、CSについて昨年度よりも保護者等に周知することができた。 ◎話し合いが精査されてきたので、適切な時間で会議を終えることができた。 ■行事の関係で2学期の学校運営協議会が2学期に開催された。	○事前に話し合う議題を共有することで、短い時間で充実した話し合いがもてるようにする。 ○次年度は、展示会の保護者鑑賞日に学校運営協議会を開催し、土曜授業の内容について定期的に話し合いができるように各学期に3回ずつ学校運営協議会を開催する。	
	の学校支援本部・地域・保護者の	・授業支援（キャリア教育等） ・学習支援（学習サポーター等） ・放課後活動（学び広場等） ・土曜日学校、ふれあい夢広場。 ・読書活動支援（読み聞かせ等） ・パワーアップ教室。 ・夏季ラジオ体操、地域のゴミ拾い。 ・環境整備（図書室整備等） ・草花の植え付け、手入れ（環境委員会サポート） ・広報活動。 ・防災教育支援。 ・地域パトロール（親児の会主催）	◎年度始めに学習サポーターの方々にお越しいただき、教員とも顔合わせができたことでスムーズに算数の学習サポーターに入ってもらえたことができた。 ◎水曜日の学び広場や算数の学習サポート、夏季休業中のパワーアップ教室など支援本部には大変感謝している。ありがたい。 ◎学習サポーターには大変助けられている。今後ともぜひお願いしたい。 ◎キャリア教育で保護者がゲストで来てもらえるのは、高2の良さ伝統であり、来年度以降も継続してお願いしたい。 ◎体力テストに多数の保護者の方にお手伝いいただきスムーズに進めることができた。 ■地域班集団下校を4月と3月に実施しているが、地域班担当者や児童への定着が図りにくい。	○学習サポーターの体制や、キャリア教育の実施など、学校支援本部活動は幅広く、本当に助けられている。高2の教育活動を充実させ、子どもたちにとって、よりよい授業を行うためにも、来年度も協力体制を維持し、継続していただきたい。 ○夏季パワーアップ教室のサポート、体力調査についての測定補助も、是非継続していただきたい。 ○「学び広場」については、大変よい取組であるので保護者への周知をさらに進めていく。 ○次年度も12月の土曜授業で震災救援所訓練を実施し、保護者・地域との連携を深めていく。 ○地域班集団下校を「4月と3月」から「4月と1月」に変更する。2回目の集団下校を3月から1月にすることで、4月に組織した地域班を活用した集団下校ができるようにする。	